

ハンガリーにおける教材作成

-Cando タスクを中心として-

角田依子 柳坪幸佳

(国際交流基金ブダペスト日本文化センター)

kakuda.yoriko@gmail.com / yanagatsubo@jfbp.org.hu

1. はじめに

ハンガリーは2004年にEUに加盟し、2006年にボローニャ制度の導入を経て、現在教育制度の変革期にある。そんな中、2007年9月にハンガリーで「ヨーロッパ言語共通参照枠組み (CEFR)」参照の日本語教材作成が開始された。教材はハンガリーの学習者向け (初級2冊本) で、現在も国際交流基金ブダペスト日本文化センターがハンガリー日本語教師会 (MJOT) の協力の下、作成を行っている。本稿では、この日本語教材について、教材の柱となる Cando タスクを中心に紹介していきたい。

2. ハンガリーの日本語教育

ハンガリーでは、2003年 (EUに加盟する以前) に、ハンガリー教育省が欧州評議会の理念をハンガリーに導入するため『Language Education Policy Profile』を作成している。外国語教育については、ナショナル・コア・カリキュラム (NAT) により、4年生になると必ず外国語を学習することが義務付けられている。第一外国語は英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語スペイン語、ロシア語の6ヶ国語であるが、日本語はその他の言語の中では人気の高い言語のひとつとなっている。日本語学習者数も年々増えている。

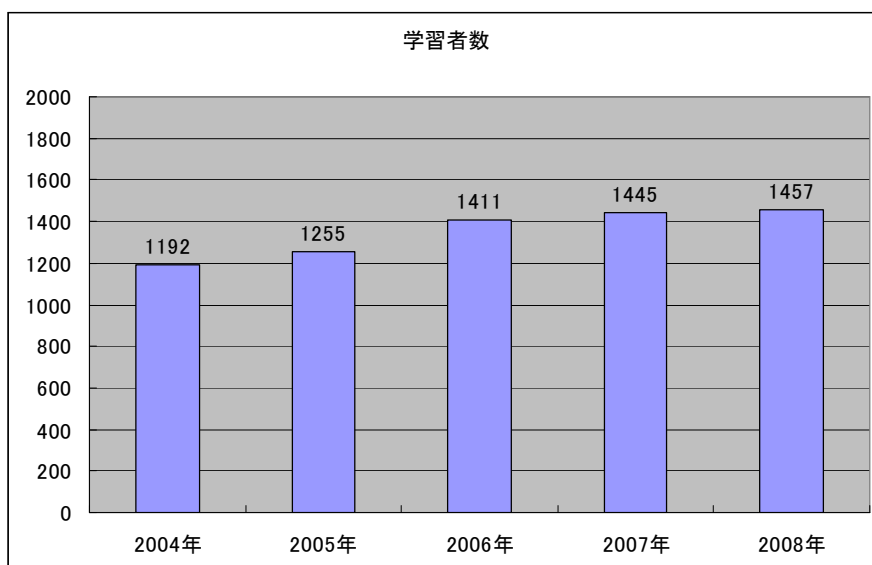


図1. ハンガリー日本語学習者数 (国際交流基金、機関調査 2008 より)

日本語教育機関数	
初等・中等	14
高等	10
学校教育以外	9
計	33

図2. ハンガリー日本語教育機関数（国際交流基金、機関調査 2008 より）

3. 日本語教材について

2007年9月に編集委員会が発足した。教材の理念、コンセプト、シラバス、サンプル作成を経て、2008年6月より執筆活動が始まった。2009年8月時点で編集委員7名、執筆者11名、イラストレーター3名、総勢20名によりプロジェクトが進行している。

教材は、中等教育における学習者以上を対象に、初級日本語教材2冊（CD付）を予定している。ハンガリーの大学入学資格試験（エーレッチュェギ）を考慮に入れており、教材のレベルも1冊目を大学入学資格試験の中級レベル、2冊目を上級レベルと設定している。日本の文化とハンガリーの文化をとりあげ、異文化間教育も視野にいたれた教材を目指している。

課の構成は以下の通りである。

- (1) その課の Cando …その課で何ができるようになるかという目標を示す
- (2) 異文化クイズ …日本の文化やハンガリーの文化に関するクイズ、写真なども使用
- (3) テキスト (1-3) …Cando のモデルとなるテキスト（ハンガリーの場面も登場）
一休さん（キャラ） …主にテキスト部分に登場し、間違いやすい部分の補足説明をする
- (4) 文法 …ハンガリー語による解説（ハンガリー語の特殊性に配慮）
- (5) 表現 …テキストに出てくる慣用表現などを扱う
- (6) 練習問題 …その課の Cando ができるようになるために必要な文法練習
- (7) Cando タスク (1-3) …この課の目標が達成できるようになったかをタスクの形で確認
- (8) コラム …ハンガリー語による読み物（先輩達の体験談などを含む）

4. Cando タスク紹介

この教材では、各課に平均3つの Cando が提示されている。冒頭に Cando が提示され、それがその課の目標となっている。そして、本文や表現、文法、練習などの学習を進めた後、最後にタスク（Cando タスク）で Cando が達成できるかどうかを確認する構成になっている。

教材に導入予定の Cando タスクはその性質に応じていくつかのタイプに分類することができる。大きく分けると、「目標や意味があるタスク」「ハンガリーにおいて<できる>ことを意識したタスク」「仲介機能を入れたタスク」「教室の外へとつなげるタスク」の4つであり、これらは相互に重なっている部分もある。以下、順を追って説明していきたい。

まず第一に、「目標や意味があるタスク」について述べたい。これには具体的には、「マンションの郵便受けの写真を見て、そこに自分や友達の名前を書いてみる」（2課）や、「料理をつくりたいと思っている。材料や道具がどこにあるかを聞いてみる」（3課）がその例として挙げられる。こういった活動は、単に「カタカナを書く」「ものの場所を聞く」ということから更に一歩進んで、どんな時に人は

カタカナを書くという行為をおこなうか、ものの場所を周囲の人に聞くかという、その行為の目的や意味をタスクの中に具体的に取り込んだものである。

2課 留学生寮の郵便受けに名前を書いてください。

マンションの郵便受けの写真。それぞれの名前がカタカナで書かれている。
いくつか郵便受けがあいていて、そこに自分の名前や友達の名前を書き込めるようになっている。

3課 ペア活動

どこにあるか質問してみましょう。－ 聞いて探してみましょう。

A : B さんの家で料理をしようと思いますが、
道具や材料がどこにあるかわかりません。
B さんに聞いてください。

～は どこにありますか。

B : 下のイラストを見ながら、
A さんの質問に教えてください。

～の ～にあります。

台所のイラスト

冷蔵庫の中、棚にいろいろな材料や道具が置いてある
道具 : 包丁、まな板、お皿、コップ、おはし、フライパン
材料 : たまご、砂糖、バナナ、小麦粉、しょうゆ、バター

ヒント :

ほうちょう、まないた、おさら…
たまご、さとう、バナナ…

次に、「ハンガリーにおいてくできる」ことを意識したタスク」が挙げられる。これらは、日本から遠く離れたハンガリーで何ができるか、どんな活動や場面が現実的かを意識したものである。例として、「SMS をローマ字で送る」(19 課) というタスクがある。

19 課 (1) 日本人の友達から SMS が届きました。SMS に返事をしてください。

① 友達 : Ashita no party ni nani wo motte ikimashouka?

あなた : _____

② 友達 : Ima tram ni notteimasu. Mou Oktogon ni tsuita?

Gomennasai, chotto okuremasu.

あなた : _____

(2) 日本人の友達に SMS を送ります。

①場面 : あなたは日本人の友達に、日本語の宿題のチェックをしてもらいたいです。
SMS で頼んでみましょう。

②場面 : あなたは日本人の友達を、おいしいハンガリーレストランに誘いたいです。
SMS で誘ってみましょう。

「仲介機能を入れたタスク」としては、「ハンガリーに来た日本人をたすける、仲介する」という Cando を入れたものがそれで、「市場でハンガリー語がわからない日本人をたすける」(20 課) というタスクが教材には入れられている。これは CEFR4.4.4.における「仲介活動」(mediating activities) を形にしたものである。そしてこの「仲介機能」を取り入れたことによって、「翻訳する」という活動に、単に「ハンガリー語を日本語に訳せるかどうか確認する」だけではなく、初級の段階からより積極的な意義を与えられたとも言うことができる。

20 課 友達の日本人が市場で買い物をしています。手伝ってあげましょう。

A さん：日本人 B さん：手伝う人

(イラスト 1) フォアグラの缶を手にとって「これ、どうやって食べるんですか？」

(イラスト 2) 民族衣装屋さんで「これ、着てみてもいいですか？」

(イラスト 3) サラミ「1本いくらですか。半分でもいいですか。いくらですか？」

お店の人が ハンガリー語で 答えている	イラスト 1	イラスト 2	イラスト 3
	「そのまま パンにぬって 食べます。」	「いいですが、 1つだけです。」	「1本 ~Ft 半分でもOK ~kg が ~Ft」

最後に、「教室の外へとつなげるタスク」についてであるが、これは主に「お持ち帰りタスク」という形で出されている。このタスクに関しては、必ずしも日本語で行うことを目的としておらず、また、授業時間内におこなう必要もない。課題という形で、教材を通じて知った内容をきっかけに自分の世界を広げていくことを目的としている。これには、例えば国際文化フォーラムのサイト、deai (<http://www.tjf.or.jp/deai>) を見て同年代の高校生の部屋を見てみる (2 課) など、インターネットを活用したタスクが多く含まれている。

2 課 HP、deai (<http://www.tjf.or.jp/deai/>) で、日本の高校生の部屋を見てみてください。

http://www.tjf.or.jp/deai/contents/search/photo_top.html に、7人の高校生の写真があります。写真をクリックすると、その高校生の一日の生活を写したいろいろな写真を見ることができます。日本の高校生の部屋には何があるか、自分たちの部屋と同じか、それとも違うか、表に入れてみましょう。

	ハンガリー	日本

以上4点が第一分冊の中心的な Cando タスクであるが、続く第二分冊では、これに加えてさらに「共同活動を取り入れたタスク」(29 課)「異文化理解のためのタスク」(47 課)「ストラテジーのためのタスク」(30 課、35 課)が入ってくる予定である。これらについては2009年8月時点で一時原稿執筆中である。

5. おわりに

教材はCEFRを参照しながら、Candoを中心としてシラバスを組み立てている。はじめに「Cando 目標」を掲げ、最後に「Cando タスク」で締めくくる形となっているが、この「Cando タスク」と「練習問題(とくに総合練習)」の境界は見えにくいところがある。それぞれをどのように扱えばよいのか教師によっても意見が異なることがあり、その点では難しさを感じている。

教材は現在も作成中である。これからも、さまざまな課題をハンガリーの日本語教育を支える先生方と共に乗り越えながら、ハンガリーオリジナルの教材完成を目指していきたい。

参考文献

ヨーロッパ日本語教師会(AJE)(2005)『ヨーロッパにおける日本語教育と Common European Framework of Reference for Languages』国際交流基金 pp.131-148.

佐藤紀子、セーカーチ・アンナ(2008)「CEFRにもとづく日本語教育とは?～対話に基づく異文化間コミュニケーション能力を養う日本語教育を目指して～」第13回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム(トルコ)

吉島茂/大橋里枝他(2004)『外国語教育Ⅱ－外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社